

マコガレイ (本まこ)

生態的特徴等

【生態】

日本から東シナ海にかけて広く分布し、主な生息域は、水深 100 m 以浅である。カレイ類では珍しい沈性粘着卵を産む。稚魚期には、アミ類などを捕食するが、成魚は、主に多毛類等を食べる。

メスの成長が早く 3 歳で 30 cm となる。オスは 2 歳で成熟する(図 1)。

【漁法と盛漁期】

主に底曳網で漁獲されるほか、延縄や固定式刺網(建網)でも漁獲されている。

【利用】

夏に旬を迎え、活魚は刺身用として高値取引されるほか、産卵期の冬には子持ちの物が煮つけなどに利用される。

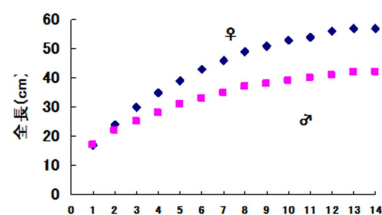


図 1 マコガレイの成長

資源量は減少期、今後の動向を注視

(漁獲量) H 元年以降、漁獲量は周期的に増減があり、現在は、H18 年の 185 トンをピークに減少に転じている(図 2)。

(加入量) 近年稚魚のまとまった加入は確認されてない。

(水準と動向) 近年の水揚量から水準は低位と判断される。また、最近 5 年間の底曳網漁業の CPUE の推移から推定し、資源動向は、減少と判断した。

水準



動向

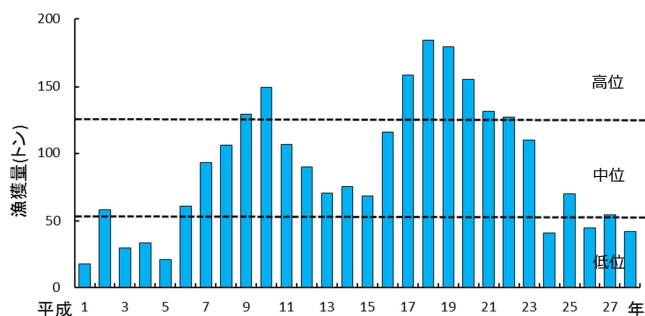


図 2 マコガレイの漁獲量(水試システム, 属地)

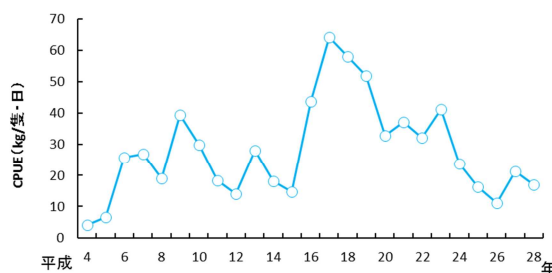


図 3 マコガレイのCPUE (底曳網)

【全国の漁獲動向】

本種のみでの全国統計はない。カレイ類全体での主な産地は、北海道、島根、兵庫など。大分県では城下カレイとしてブランド化されている。

評価期間：平成 28 年 1～12 月 更新日：平成 29 年 11 月 14 日